

の教育界當校に赴任以來まだ、新任だと思ふ中に我が受け持ちし級は一年を終へて二年となり又將に三年に進まんといたし居り候、もはや二年古株の教諭と相成り候、經驗はたしかに二年間ありと證明はいたせど其の二年間に於ける我が力やいかに実績や如何に思つて、至れば慙愧にたへず候、しかし私はこの二年間に於て「教育者の責任は眞に重大なるものなりこの重任に當る教育者の人格が如何に生徒に影響を及ぼすか」といふことを最も強く最も深く我れとわが心の底より感じ申候、ペンとノートとを持つて先生の講演を拜聴せし空想時代とかりにも教諭といふ肩書をもち責任を自覺して其の任に當る今日の感想とは其の強さを異にいたし候、今にして先生の御話もしみ先輩の注意も宜なりと納得いたし候毎日同じやうに教壇に立つておしやべりしつゝも一時間少くも四十人の生徒の智識に品性に何等かの影響を與へてゆくかと思へば決して寸時も等閑には附せられず其の任實に重大と存じ候まして級は級風を作り

學校は校風を作るは皆其の指導者の人格を表はすといふことを自らこの道にたづさはりて大いに感得いたしここに一層眞面目に新らしき覺悟を加へ候、生徒殊に自分が受持つ級などに親しみのますにつけ生徒の可愛さのますにつけはた自分の言ふ所をよくききよく守るにつけひとしほ我が身の不束を反省し恐ろしく感じ居り候、かゝる感想はごなたも御同感の事と存候、時々教育者の品性の上に於てとやかくと批難多き今日私共御互に相提携して大いに心を締めてかゝらねばならじと存候、近頃は學期末にて生徒の操行査定會なるもの開かれ生徒各自の品性につき話し合ふ都度一層責任を自覺せる昨今とてつひ／＼筆が走りつまらなきと書き列ね候、いづれ歸京後はせひ御面にかゝりいろ／＼御話いたさんと樂しみ居候、吹雪にとざれし當地も今や春の光ゆたかにみちて學校の堤には、や土筆の二三本をみつけ申候、此次の日曜日には近き野邊に芹摘まんと今よりたのしみ居候、遠足父兄會など事務たてこみ居り御返しもおくれ失禮

仕り候、先は延引ながら御返し迄 かしこ

三月九日

湖畔にて 竹田 倭子

◎三原より

筒井 たか

午後三時の放課の鐘がなる、さあ運動時間と先達の寒空にも羽織をぬいで出かけます。お笑ひ下さいますな私のラケットの手ぶりを。巴鬼にも入ります。時には旗ごりの競争に衆人歡呼の裡に馳せ歸ることもございます。多くは其の組をまけさして恨まれるのでございますが。四十分汗びつしよりで教務室へ歸り再び作文帳や書取帳など山の様な仕事を一つ／＼片付けます。歸宅は大概四時半か五時、母か一日淋しく暮して居ますので夜は大概自分の時間といたしません。朝少々の時間を勝手な讀書などにつかひます。

四日目四日目に寄宿舎へとまります。二百七十人の大家族なので在校中思つて居た様によい

工合には参りません。ともすれば過失をさせては其善後策を考へ、病氣させては養生法について苦心するなど、いつも消極の方ばかり力が注がれて誠にふがひないことでございます。こんな時にはやゝもすれば人数が少かつたらさぞ理想通りにせられるであらうと考へますが、かく考へては直ぐ打消するものがございます。中江藤樹先生は彼の近江國高郡小川の里で幾百の人、然も教育もない年齢の差のひゞい一つの群りを美しい堅い團結とせられたではないか、孔子も法を以てせず徳を以てすればよく民を治め得んといふ様な教へがある、どうして之れら多く温良な少女の一團を導きえられないことがありませうと何物かの叫聲によつて無能な材も策うたれつゝ勇氣を鼓して居ます。

舎の後苑は櫻山といふ五百尺の小丘の中腹までついで居ます。一寸お晝食後でも上りますと瀬戸の内海一目で梁川星巖先生が

他年夢裡問二陳迹一 細雨春帆、双鷺洲
と贊嘆せられた大鷲小鷲の二鳥は指呼の間に

見たされ碧波た、へて居る海面は静に行きかふ船の幾艘をうかべて居ます。黒くぬつた船體にそれと知られる軍艦の雄姿を見ることも珍らしくございません。

土曜日の午後聯合体操と申しまして全校か体操いたしました。一年以上は高等師範と同じく体操服を着しますか豫科はつくりませんので河原様(昨年、理科卒業)とならんで豫科の最右翼となりましていたします。正面の時はよろしいか時に廻れ右をさせられるとき號令かきこへなかつたりしますと大笑はれいたします、けれども之れも「生徒奨勵の一助」など、怪しい先生ぶりを成るべく缺席しないで示して居ります。さぞかし見物でございます。この時間が時に校外散歩に用ゐられることがございます。

わかいほは松原つゝき

でもございませませんが、校門外南數十歩で海岸に達しますし、又後庭の櫻山と峯つゝきに米田山(六百尺)鉢ヶ峯(七百尺)中國山脈の餘波の丘陵はせまつて居ますので市街と没交渉で庭草履

の如き美しい名をなしたてございませうか。私はこれをしらべたからでなく常から考へて居ましたが、今更女子の職分の自己發展になくて犠牲的に人を扶け世を益するにあること即ち眞に偉い女は自分が偉くなるのではないといふことをふかく考へるのでございます。

先達の師範學校長會議で文部省の諮問案の中で師範生に通じてすゝむべき點として議決せられたものは御承知の様に一、向上の精神二、自律的發動的の行爲三、直贊卒直の風であつたと承りましたが私はこの中の向上の精神の缺乏といふことについて師範生殊に女子に於て甚たしいと思ひます。これは女子の見界が狭く物事を凡て差別的に見て自分は彼より優れて居る、彼より劣つて居る、だからもうよい、つごめませう、といふ風になつて自分は何の爲に努めるのかを知らない。即ち信念のある生活理想に向つて進むといふことに思ひ及はない人か多いからであらうと存じます、それについて宮田修先生の座右銘として拜見いたし深く感して居る言葉がご

のまゝこの時間内に十分山登り濱遊びができ葺がり蕨どりさては貝ひろひと興がられます。

昨夜(二月二十八日)は陰曆二月四日で赤穂四十六義士の二百十一年目の自刃の日でございますので舍で談話會がございました。其の話の材料をしらべるについて義士の母たり妻たる方々のいかに其の夫其の子を助けはげましたかといふ其の精神其の行爲をみまして今更感嘆の言葉を知らぬほごでございました。夫に殉じた小野寺丹女、未だうら若い身を世と斷つてひたすら主家再興につごめ父や夫の志をついだ妙海尼さては子に一身をさゝげて遂に一家をたてた大石良雄夫人、原惣右衛門夫人、又身を殺して子をはけました同じく惣右衛門の母など何れも自分の身を忘れて其の子その夫に忠勤を全うさせようつごめた犠牲的精神は誠に立派なものであります。解放自由を叫んで居る女子にしてもし之等義士の母たり妻であつたなら果して如何でございませう。元祿の快擧は或は今日

ございます。

「少くとも十年後の將來に目的をおき豫め其處に達する大体の進路を定め而して脚下の現在を遺憾なく充實し行くべし」といふのでございませう。

一生涯の目的を立てるといふことは苦しいことでもございます。十ヶ年とかざると何んとなんのか定まつて居る様で行いやすうございませう、そして其の現在を充實して行く事ができたなら誠に立派なものであらうと存じます。

私は生徒を導くといふことがこゝに二ヶ年に垂んとして居ます。然もなほ如何にして如何なる人にしてよいかがまた十分分らないのでございます。誠にあはれな薄弱なまた申わけのない教育者でございませう。

こゝに自分の此頃の感想を披瀝して先生初め皆様に質し誤をお示し下さいますことを切に願上ます。幹事の方からの近状をこの御手紙によりましてお答へいたします。これか私の心と身体の近頃の模様でございます。終りに皆様

の御健康を祈ります。

◎宮崎より

長谷川清子

そゝりたつ杉のむら立をこめて、匂ひやかなる細き雨、あたたかく降りて候。こゝ南の國に、さすらひの子は、これをしも悲しと見つゝ、そゝるかいやりし歌反故の中より、いさゝかを、ものしまゐらせ候。

灰ふる國

埋もれて化石となりし後の世のわが面ざしの清かれと思ふ。

火もふれや天地こがせや大神のあらびはかくと世に知らすべく。

このまゝに逝かば得なまし美しき名を死ぬまで清き處女なりしと。

静けさをたい静けさを願ひ居り夜を日をこめて灰ふる國に。

灰ふりぬ風ふきぬその二日して晴れたるみ空なつかしきかな。

そゝろ来て

遙にも我は來しかなおのゝきとよろこび心とふたつをもちて。

そゝろ来てふと見いでたりりんごうの紫なるがいと悲しき。

あるときは母をおもひて父こひてはかなくよりぬコスモスのかげ。

みどり葉の中より空をすかしみて小鳥のごともよろこびしかな。

浪あらし日向の濱にわが名してきゆるを見つゝまたもかきしか。

空もよし氣よし水よし草木よし日向の秋のころよさかな。

すみとほる日向の空を野邊にして仰げは心きよくもあるかな。

うきめみしその度毎になげかじとためし涙のおきごころなき。

悲しみの涙見せんを耻としきあまりに強き我心かな。

◎水戸より

竹尾 恵子

音楽室よりひやく卒業式のうたにふと二年昔の此頃思ひ出で、母校出身の人と「ゆきませ」を口ずさみ候ひしは昨日の午前にて候ひき。あの歌に送られてより早や二年をこの地に過し申し候。私は何の變りも御座なく強いて言へば一日／＼と退歩いたすのみに御座候。たゞ元氣よく日々學校に參るをたのしみといたし居り候まゝ、御安心下され度候。會誌を拜見いたす毎々御在校の方々の御めざましき御進歩のさまを伺ひたゞ御めでたく又御羨ましく存居り候。あの頃二年生にていらせられし方々の早や御卒業と伺ふにつけ二年間何して過し候ひしやらんとそゝろ我身のかへりみられ生徒に對し學校に對し申譯なき感のみ致し候。こゝも關東平野と連る一部分氣候なども東京と大差は之なく候へども二月頃より三月末まで身を切る如き筑波下しの吹きすさぶには閉口致し。候日本三公園の一と云はるゝ常磐公園の梅はいま盛りにて日曜日

などは東京よりの觀梅の客に賑ひ居り候。町をはなれて田舎道を少し參りし處にあるこの公園はなか／＼自然にてよろしく春は梅、初夏はつゝ秋は萩に月冬は雪とそれ／＼すぐれ居り候しかしいづれの折にても餘り人出の多からぬ時か一番よろしく存じ候。水戸停車場より太田行といふ小さき汽車にて五十分ほど參り候へば太田町に着き候。こゝは御存じの西山の山莊に水戸家累代の墓所のある處にて私もこちらへ參ると間もなく一度參り候が御存じの如く西山の小莊は光圀公の御隠居所にて下民の状況を知り質素の模範を示されんためその建物は上下の區別を去り極めて平民的につくられ候て公をしのぶ唯一のものと存じ候。又水戸より汽船、但し最も小さきものにて那珂川を下し候へば大洗海岸に參り候。此頃は乗合自動車も通ひ居り候が河蒸氣の方趣ふかきやうに思はれ候。この大洗は例の「磯で名所は云々」の磯節にうたはるゝ所にてはるかに鹿島灘をへだて、犬吠崎と相對し太平洋の浪は直接に岩にあたりて碎け居り候。